

クリの筑波28号「紫峰」の特性

農業研究センター 球磨農業研究所

研究のねらい

球磨地方における栗の主要品種のなかで丹沢、筑波、利平等はクリタマバチの被害が多く、樹勢衰弱により廃園化を早めている。

このために、農水省が育成した5系統について昭和59年から平成3年まで、特性調査を行ってきたが、この中の筑波28号(「紫峰」名で農水省が登録申請中)が有望と思われるので調査結果を紹介する。

研究の成果

1. 育成経過及び生育特性

- (1) 昭和46年農水省により、両親ともクリタマバチ抵抗性が強い銀鈴と石鎚の交配によって育成された。
- (2) 発芽期、満開期は筑波と同時期である。幹周、樹冠拡大は筑波より早く、枝の分岐は角度が広く整枝はやりやすい。
- (3) 収穫期は9月中旬から10月上旬で筑波より2日程度早い。

2. 結果性

結果性は良く若木時代は、筑波よりやや優れる。1果重は26グラムで筑波より大きい。玉揃いもよく双子果も少ない。

3. 果実品質

果実比重は筑波より軽く、甘味及び香気は中で食味は筑波よりやや劣る。

4. 病虫害等

クリタマバチ抵抗性は筑波より明らかに強い。実たんそ病、胴がれ病の発生は少ないが、年によってモモノゴマダラメイガの発生が多い。台風に対する抵抗性は強いと思われる。

普及上の留意点

本品種は、クリタマバチの被害がひどい地帯で、筑波の補助品種としての導入が期待される。

栽培に当たっては、ゴマダラメイガの防除を怠らないこと。また石鎚の血を引いているため着色がやや浅いので、肥料不足にならないように注意する。



写真 筑波28号(紫峰)

表1 紫峰の特性

品種	収穫期			累計収量 (8年生まで)	1果重
	始	盛	終		
紫峰	9.15	9.25	10.4	44.6	26.2
筑波	9.17	9.28	10.6	41.8	23.0

品種	双子果(%)	甘味	香気	腐敗果(%)	虫害果(%)	クワバチ発生
紫峰	0	中	中	1.8	21.6	中~多
筑波	5.1	中~多	中~多	2.7	7.8	無

図 累計収量(2~8年生)

